

日文佛學期刊總目索引（三）

新編世界佛學名著譯叢

新編世界佛學名著譯叢

第十九冊

日文佛學期刊總目索引（三）



中國書店

新編世界佛學名著譯叢
PDG

本册說明

本書原名爲「佛教學關係雜誌文獻總覽」。一九八七年由日本東京的「國書刊行會」所出版。內容收集日本明治初年到昭和五十六年（一九八一）共計一百多年間的佛學期刊的內容總目。收錄的期刊共有二八八種。由於原書書名不甚適合中文習慣，因此乃由「譯叢」編者改爲今名。

顯然的，這二八八種期刊的內容多少可以反映近百年來日本佛學研究的大致趨勢以及研究成果。因此，將它們的各期目錄綜合於一處發表出來，其學術價值，自是毋庸置疑。同理，「譯叢」將這部總目推介給國內的讀者，其意義也是清楚可見的：主要的意義是，可以使日本近百年來佛學研究成果的縮影，呈現在國人的眼前。

除此之外，對從事佛敎研究的讀者而言，我們還要向他們建議幾種使用本書的方法：

(一)初入研究之門的朋友，最常遇到的困擾是不知道要研究什麼，亦即想撰寫論文却找不到方向。如果是這種情形，不妨稍加翻閱本書，讀一讀日本學者的論文題目，相信會得到若干啓發。

(二)已經確定研究方向的人，也可以從本書得到制定題目的啓示。已經訂好題目的人，也可以查閱本書，看看所訂題目是否已有日本學者寫過。如果是，不妨想辦法取得該論文

的全文以資參考。

(三)要從事佛教研究，除了功力、方法、輔助學科等條件必須具備之外，對於國際間的佛教研究資訊也不可忽略。我們的佛學研究環境不佳，大學沒有佛教科系，佛教界迄今還未能興辦大學，因此，對國際上的佛學研究資訊，我們一向陌生。針對這項缺陷，本書稍稍（當然不是全部）可以彌補。

本書內容與「譯叢」第⑮冊「當代日本佛學論叢總錄」一書，雖然都是有關日本佛學研究的論文目錄，但是內容與性質都並不相同。兩部書可以互補，並不衝突。

原書為十六開版面，每頁分三欄。由於「譯叢」版面較小，僅廿五開，為使內文不致過小，因此改為每頁二欄。全書分裝四冊，「著者索引」收在第四冊（「譯叢」編號⑳）卷末。全書的編排以日語字母順序為準，讀者可依音順查索到所需的期刊。

新編世界佛學名著譯叢

日文佛學期刊總目索引（三）

本冊收錄雜誌一覽

哲学年誌—PHILOSOPHIA—ノイン	ファイア	
天台	台	一
天台学報	二	
天台眞盛宗学研究所紀要	一四	
伝教大師研究	一四	
伝道院紀要	一六	
東亞宗教學情	二二	
東海仏教	二六	
東京大学文学部文化交流施設研究紀要	三三	
東方	三四	
東方学	三六	
東方学報 京都	四一	
東方学報 東京	四六	
東方仏教	四八	
東北印度宗教学会論叢	五二	
東北仏教研究会研究紀要	五四	
東北仏教文化研究所年報	五五	
東洋学研究 (駒沢大学東洋学会)	五五	
東洋学研究 (東洋学同友会)	五六	
東洋学研究 (東洋大学東洋学研究所)	五七	
東洋学研究所集刊	六一	
東洋学術研究	六二	
東洋学報	七三	
東洋協会調査部学術報告	八八	
東洋史苑	八八	
東洋思想	九〇	
東洋大学紀要—東洋大学文学部紀要 印度		
哲学科中国哲学文学科篇		
東洋大学紀要—文学部篇—東洋大学文学部紀要 印度哲学科中国哲学文学科篇		
洋学論叢		
東洋大学大学院紀要	九二	
東洋大学文学部紀要 印度哲学科中国哲学文学科篇		
東洋大学文学部紀要 仏教学科中国哲学文学科篇		
東洋大学文学部紀要—東洋大学文学部紀要 印度哲学科中国哲学文学科篇		
東洋大学文学部紀要—東洋大学文学部紀要 印度哲学科中国哲学文学科篇		

要 印度哲学 中国哲学 文学 科目 八 東洋学

論叢 V

東洋大学論叢……………	九六
東洋文化研究所紀要……………	九七
同朋学園仏教文化研究所紀要……………	一〇二
同朋学報(同朋塾)……………	一〇三
同朋学報——同朋大学論叢……………	一〇三
同朋大学論叢……………	一一一
同朋仏教……………	一一一
中山文化研究所紀要……………	一一四
成田山仏教研究所紀要……………	一一五
南都仏教……………	一一七
二松学会大学論叢……………	一二七
日本教学研究紀要……………	一二八
日本宗教学会第五回大会紀要——宗教研究……………	一二八
日本宗教学会第三回大会紀要——宗教研究……………	一二八
日本宗教学会第四回大会紀要——宗教研究……………	一二八
日本宗教史研究年報……………	一三〇
日本西蔵学会會報……………	一三〇
日本仏学論叢……………	一三四

日本仏教…………… 一三四

日本仏教学協会年報——日本仏教学会年報…………… 一四六

日本仏教学会年報…………… 一四六

日本仏教史…………… 一七〇

日本仏教史学(日本仏教史学会・京都)…………… 一七一

日本仏教史学(日本仏教史学会・東京)…………… 一七四

日本仏教文学…………… 一七九

日本文化研究所研究報告…………… 一八〇

日蓮とその教団…………… 一八一

日蓮教学研究紀要…………… 一八二

日蓮主義研究…………… 一八五

日蓮宗教学研究大会紀要…………… 一八六

日華仏教…………… 一八七

日華仏教研究会年報…………… 一八八

長谷川仏教文化研究所研究年報…………… 一九一

花園大学研究紀要…………… 一九二

ピタカ…………… 一九五

(比較山尊修学院本科研究会)研究会学報……………

——教山学報……………

比較思想…………… 二〇七

比較思想研究	二〇八
秘 境	二一〇
フィロソフィア	二一一
豊山学報	二一四
豊山教学大会紀要	二二〇
深草教学	二二四
仏 教	二二五
仏教と民俗	二二三
仏教学(大正大学仏教学研究會)	二三八
仏教学(大正大学仏教学研究室)	二三九
仏教学(仏教学研究會)	二四〇
仏教学(無礙光社)	二四三
仏教学セミナー	二四五
仏教学紀要——仏教大学学報	
仏教学研究	二五八
仏教学研究會年報	二六七
仏教学雜誌	二七五
仏教学徒	二八一
仏教学報	二八二
仏教学論叢	二八三

仏教学論叢	二八七
仏教学會誌——仏教学報	
仏教学會誌	二八七
仏教学會報(高野山大学仏教学會)	二九一
仏教学會報(龍谷大学仏教学會)	二九三
仏教経済研究	二九三
仏教芸術	二九五
仏教研究(大谷學會)——大谷学報	
仏教研究(國際仏教徒協會)	三三三
仏教研究(仏教研究会)	三三六
仏教史学(仏教史学会・京都)——仏教史学研究	
仏教史学(仏教史学会・東京)	三四五
仏教史学研究	三五四
仏教史学会會報——仏教史論	
仏教史研究	三七〇
仏教史林	三七三
仏教史論	三八一
仏教思想史	三八三
仏教大学学報(仏教大学)	三八五

仏教大学学報（仏教大学学会）——仏教大学

研究紀要

仏教大学研究紀要……………三九五

仏教大学研究室報——仏教大学学報

仏教大学講座講義集……………四一一

仏教大学大学院研究紀要……………四一四

仏教大学通信教育部専攻科論集……………四一六

仏教大学通信教育部論集……………四一七

仏教大学論叢——電谷大学論集

仏教通俗講義……………四二四

仏教美術……………四二九

仏教福祉……………四三三

仏教文化（東京大学仏教青年会）……………四三七

仏教文化（東京大学仏教青年会）……………四三八

仏教文化（東京帝国大学仏教青年会）……………四四一

仏教文化研究（浄土宗教学院研究所）……………四四九

仏教文化研究（望月仏教文化研究所）……………四五六

仏教文化論集……………四五七

仏教法政経済研究……………四五八

仏教民俗……………四六〇

仏教民俗研究……………四六二

仏教論叢……………四六三

仏書研究……………四八八

仏專学報——仏教大学研究紀要

仏典研究……………四九七

仏典講義録……………五〇〇

文化……………五〇四

文芸摩訶衍——鷹陵説苑

宝 雲……………五〇六

法然学大会論叢……………五一〇

北海道駒沢大学研究紀要……………五一二

法華文化……………五一三

法華文化研究……………五一六

日文字母音順目次

ホ	五〇六
フ	二一一
ヒ	一九五
ハ	一九一
ニ	一二七
ナ	一一四
ト	二二二
テ	一

【テ】

天台 (てんだい)

仏教書林中山書房 (東京都文京区湯島二一)

四一四)

昭和五五年 (創刊号) —— 発行中

創刊号 (昭和五五年六月)

△特集・最澄八〇▽

一寺は道心の苗床

伝教大師と徳一法師の論争について

わたしの会った伝教大師

伝教大師の東国巡化小考 (一)

法華懺法講義 (宗典講義・一)

岩田教円上人略伝

法華大会・広学聖義 (法儀解説・一)

アメリカ仏教体験記

大久保 良 順
田 村 晃 祐
木 内 堯 央
浜 名 徳 有
塩 入 良 道
岩 田 教 順
即 真 尊 耀
一 島 正 真

円頓授戒の現代的意義

山家本・妙法蓮華経との出会い

「最澄と空海の思想」における疑義

吉祥寺文書 (資料紹介)

最澄門下の思想

五分間法話

伝教大師について知るための本

今井 長 新
山 本 堯 俊
木 村 周 照
村 田 顯 田
由 木 義 文
相 馬 観 舜
木 内 堯 央

第二号 (昭和五五年一月)

△特集・関東天台の源流をたずねる▽

川越仙波・無量壽寺喜多院

輪王寺の創立

天海史料——私注

東叡山成立以前の埼玉の天台

「関東天台」と世良田の長樂寺

関東八檀林

河田谷十九通について

伝教大師の東国巡化小考 (二)

大森亮順大僧正小伝

法華懺法講義△宗典講義▽二

御釈教授戒会次第

「摩訶止観」引用典拠総覧一

「一隅を照らす此れ則ち国宝なり」の訓みにつ

塩 入 亮 達
古 宇 田 亮 宣
佐 々 木 邦 世
有 本 修 一
小 此 木 輝 之
村 田 顯 田
清 水 英 雄
浜 名 徳 有
壬 生 台 舜
塩 入 良 道
南総教区研修所編
中国仏教研究会編



日文佛學期刊總目索引 (三三)



日 文 佛 學 期 刊 總 目 索 引 (三)

いてハ書評V

宗祖の父は百枝か浄足かハ一宗徒の発言V

教科書に見る「天台宗」

第三号 (昭和五六年八月)

ハ特集・天台と鎌倉仏教V

満山三宝の折念と共に——比較山調査と研究三

十年——

法然上人からみた天台宗

比較山からみた鎌倉仏教

往生・成仏について

親鸞聖人と天台

一週上人と天台

日蓮宗から見た天台宗

栄西の天台宗

道元禪師と天台

伝教大師の東国巡化小考 (三) 下野薬師寺

渋谷慈燈大僧正伝

法華懺法講義 宗典講義 (三)

御懺法講 禁中法要の古儀

「摩訶止観」引用典拠総覧 (二)

木村 周照

浜名 徳永

植原 比呂志

景山 春樹

大谷 旭雄

由木 義文

福原 蓮月

朝枝 善照

橋 俊道

渡辺 宝隔

柳田 聖山

池田 魯参

浜名 徳有

森 定慈 紹

塩入 良道

天納 伝中

中国仏教研究会

第四号 (昭和五六年十一月)

ハ特集・天台の実踐法門V

特殊法儀の発生とその意義

龍山十二年

回峰行の思想的背景

回峰行の実踐

重授戒灌頂

五重相伝 (西蓮寺)

玄旨揚命壇灌頂

彈管流高声念仏

玄清法流覚書

居士林での止観の実踐

福田堯顯大僧正小伝

法華懺法講義 (宗典講義) 四

二十五三昧式

「摩訶止観」引用典拠総覧三

大久保 良順

小寺 文穎

平松 澄空

光永 澄道

色井 秀讓

鈴木 高然

大久保 良順

須藤 大元

高倉 清哲

堀沢 祖門

荏司 高雄

塩入 良道

即真 尊羅

中国仏教研究会

天台学報 (てんだいがくほう)

天台学会 (東京都豊島区西巣鴨三丁目 大正

大学内)

(滋賀県大津市坂本町 叡山学院)

昭和三五年(創刊号)——発行中

創刊号(昭和三五年一〇月)

△昭和三四年度天台宗教学大会記念号▽

天台觀經疏と往生要集

平 了照

玉泉天台について

関口 真大

山家の種子観

上村 真肇

ペトロフスキー本・法華経原典の特色について

清田 寂雲

——序品から人記品まで——

雲井 昭善

仏教興起の歴史的意義

三 崎 良 周

再び山王神道と一字金輪仏頂について

牛 場 真 玄

什訳法華経における俗語の二三について

渡 辺 守 順

祖伝における恒武帝崩御の意義

学位請求論文審査報告書

清水谷恭順「台密の成立に関する研究」

平 了照「南岳慧思禪師の研究」

関口 真大「天台止観の成立と達摩禪」

第二号(昭和三六年九月)

坐禪と二十五方便

天台宗小史(日本の部)(五)

聖義の話

回峰行の話

先徳のお言葉

第三号(昭和三六年一〇月)

宗祖御遺誠に於ける「服」の問題

勝野 隆 信

学生式に於ける天台宗団の独立と其の理由に就て

古川 英 俊

法華経法師品梵漢比較考

清田 寂 雲

鎌倉期の南部仏教における穢土思想

三 崎 良 周

奏進法語の書誌学的考察

西 村 周 紹

南方律からみた円頓戒について

小 寺 文 穎

章安尊者の長安留錫について

村 中 祐 生

化法四教に於ける行位の問題

塩 入 良 道

四恩について

壬 生 台 舜

金剛辨論と大乘起信論との関係

大 久 保 良 順

佐藤哲英著「天台大師の研究」

関 口 真 大

第四号(昭和三七年七月)

伝教大師の教主観

塩 人 亮 忠

性無作仮色の戒体論について

竹 田 暢 典

日文佛學期刊總目索引(三)





日文佛學期刊總目索引 (三)

天台宗小史 (日本の部) (六)

戒名のつけ方

お経のよみ方

第五号 (昭和三十七年一〇月)

弥勒下生の聖地

阿弥陀経の成立について

近世天台宗の教育方法

密教の禪觀——大日経を中心として——

知礼の實踐論について

学位請求論文審査報告書

壇入亮忠「伝教大師の思想と教学の研究」

雲井照善「仏教と社会的基盤の研究」

第六号 (昭和四〇年七月)

天台小止觀の成立について

埴納経について

妙法華「方便品」の構造に就て

十句觀音経について

大日経義釈に引用せられた経論について

三乘唯識の一乘觀

勝野隆信

山田惠隆

牛場真玄

服部清道

色井秀讓

尾上寛仲

酒井敬淳

壇入亮達

関口真大

関根大仙

千村実直

壇入亮達

酒井教淳

藤井隆生

天台宗門より見たる人づくりと里親制度

第七号 (昭和四一年一月)

慈覚大師についての一二の解明

高祖より宗祖に至る戒觀の展開

天台声明に於ける一調他出・一音他調の問題点に就いて

天台大師智顛の孔・老二教觀——王法觀をもとめて(その一)——

チベット・タンカの問題点

法華経に於ける無量義と授記(続)——方便品の構造——

今昔物語集と比叡山

第八号 (昭和四二年一月)

円戒の円について

阿闍仏の本願と阿弥陀の本願

初期仏像における觀世音菩薩について

カダリック出土梵文法華経隨喜功德品

仮受小戒について

阿野亮永

福井康順

竹田暢典

坊城道澄

星宮智光

小島文保

千村実直

渡辺守順

平了照

色井秀讓

五十嵐亮俊

小島文保

木村周照

伝教大師の円機已熟説について——民族性試論

(一)——

天台大師の衆生法に就て

桑木 祐弘
荒 了寛

関東天台檀林世代の相互交流について

千葉 照勲

Sūtra-samuccaya (経集) について

一島 正男

大乗法苑義林章十二分章について

昼間 玄明
木内 央

伝教大師の門弟と密教

日光修験の性格——徳川期を中心として——

「四万六千日」信仰について

中川 光薫
吉川 真行

章安尊者と嘉祥大師(序説)

村中 祐生
竹田 暢典

初期日本天台宗の国家仏教的性格

沙門亮盛の坂東霊場記について

清水谷 孝尚
池山 一切円

伝教大師の願文と梵網經について

鎌倉時代の南都仏教と天台教学の交渉——主として延暦寺智円と東大寺宗性の關係について——

真盛上人史料考

尾上 寛仲
勝野 隆信
関口 真大

五時教判論



修禪寺決を中心とする二三の問題

無動寺慧心流の展開

円戒における三聚説の展開

字治拾遺物語と比叡山

宗祖大師の密教——雑雙茶羅相承について——

慈覚大師における密教觀の形成

天台魚山声明の宗教性について——用心集に於ける律呂論並に一調曲・兩調曲を中心として——

叡山の再興と正教蔵について

三車火宅の譬について

第一〇号(昭和四三年一〇月)

宗祖生誕年時考

化儀四教論

諸法実相と仏知見——哲学と宗教との間——

天台入隋僧日延

中世美意識の中軸としての、止観的美学

三界火宅について

荆溪大師の無情仏性説

大久保 良順
尾上 寛仲
小寺 文類
渡辺 守順

酒井 敬淳
木内 央
坊城 道澄
富田 円隆
清田 寂雲

福井 康順
関口 真大
片岡 義道
尾上 寛仲

三崎 義泉
村中 祐生
坂本 広博

三界火宅について

荆溪大師の無情仏性説

日文佛學期刊總目索引(三)



日 文 佛 學 期 刊 總 目 索 引 (三)

近世東北における天台教団の動向——特に仙台

仙岳院文書を中心として——佐々木 邦 磨

慈覺大師における仏身觀の展開 木 内 央

密教における弥陀思想 泉 浩 洋

鎌倉仏教における護国思想 竹 田 暢 典

十宗伝道布教史の一断面——安居院流唱導書の 木 村 周 照

一、二について—— 牛 場 真 玄

伝教大師の禪法相承について——「内証仏法血脉 平 了 照

脈譜」を中心として—— 清 田 寂 雲

明曠撰天台菩薩戒疏について 法華經序品の梵漢対照に於ける二、三の問題点

第一一号 (昭和四四年一〇月)

叡山大師伝考 福 井 康 順

浄土十疑論と叡山浄土教 色 井 秀 讓

化法四教論 関 口 真 大

一心三觀の仏教カウンセリング的理解 藤 田 清

梵天勤請の意味するもの——仏伝における 雲 井 昭 善

聖徳太子の推摩経義疏と天台の推摩経疏(文疏・ 金 治 勇

略疏)との比較

横川修学制度 尾 上 寛 仲

仏性論系譜 滝 藤 尊 教

天台魚山声明の宗教性について(その二) 坊 城 道 澄

——特に拍子論並に楽曲構成の特殊性を中心 として—— 星 宮 智 光

中国仏教における伝統思想包摂の一齣——天台 大師と儒教—— 村 中 祐 生

因縁所生の心 第二二号 (昭和四五年一〇月)

叡山大師伝の再検討 福 井 康 順

観心と心観 平 了 照

天台宗学の理念 森 觀 清

後縫織上皇と中古天台の勃興 洪 谷 亮 泰

四悉檀の仏教カウンセリング的理解 藤 田 清

法華経本門開顯の動因とその意趣——本・迹 千 村 実 寛

二門構造の網格について—— 塩 入 良 道

国分寺のいわゆる本尊について 尾 上 寛 仲

応和の宗論と宗要義料の確立 片 岡 義 道

理成と道德律 酒 井 敬 淳

台密の阿字観 牛 場 真 玄

浄土院版「伝教大師将来目録」について——特 にその序跋を中心として——

牛 場 真 玄

宝地開証眞の密教論——天台真言二宗同異章を

中心に——

小寺文顯

宝地開証眞の「山家註無量義經抄」について

福原隆善

現代本宗布教における問題点——特に「二隔を

木村周照

照らす」について——

竹田暢典

仁王經の戒学的意義

村中祐生

天台禪門における身觀の一考察

——とくに老荘思想の受容と拒否——

星宮智光

慈覺大師勅修灌頂の官符について

木内 央

近世寺院における妻帯僧の取扱いについて

佐々木 邦廣

「涅槃經集解」所立の科文について

坂本 広博

パウロ写本等に於ける摩多点的様式について

清田 寂雲

——悉曇書体との同異に注意して

第一三三号 (昭和四六年一〇月)

智願の思想の背景とその生涯 レオン・ハーヴィッツ

長眞法華願文の校訂 渋谷亮泰

宗祖大師の学風について 清田 寂雲

教育方法体系としての四教・三觀・四悉檀

本宗伝道布教の本義——宗祖の「道心」につい

て——

藤田 清

古今著聞集と比較山

木村周照

伝教大師と智証大師の密教

渡辺守順

・止観的美意識の源泉

酒井敬淳

五教章壽靈疏の成立に感ずる一考察

三崎義泉

伝教大師の山王説について

武井雄哉

第一四号 (昭和四七年一二月)

靈山同聴について

平了照

五時八教論

関口真大

真阿宗淵僧部の「尊き御法」

色井秀雄

礼拝と奉仕——大乘菩薩行の基体として——

雲井昭善

真俗一貫と仏教カウンセリング——応用仏教

藤田 清

(稿) 字の構造——

浄土院版「伝教大師持来目錄」について(再再考)

——沙門空兼学法目錄との対比を中心として——

慈願和尚の勤学論

牛場真玄

不動の讃(梵語)の訳解

尾上寛仲

弘仁期における宗祖大師と台密

清田 寂雲

酒井 敬淳

日文佛學期刊總目索引 (三)